

【令和7年度 第1回リーベルネットワーク会議】

日 時:令和7年9月26日(金) 10:00~11:40
場 所:八女市役所 301会議室
参加者:児童関係(めぶみ、さら、amimo 八女町屋、八女総合療育館、HIRO キッズ、つくし園、みらいく、ぐろーあっぷ、yellow2nd)、計画相談(ゆうゆう、よろず屋、悠、ほっぷ、Candy house リーベル)、就労関係(こころ、さんふらわあ、八女作業所、ワークスペース蓮、夢と希望、ちくご作業所あいあい、ひまわり、プラムの小径、LINK、八女あかり、のぞえ風と虹、ふるさと)、入所等(陽だまりの里、蓮の実園、蓮の実団地、ブルーローズ)、就業・生活支援センターデュナミス、発達障がい者支援センターあおぞら、八女市社会福祉協議会、公共職業安定所、南筑後保健福祉環境事務所、八女市教育委員会・子ども相談室あおいとり、東部包括支援センター、八女地区障害者地域生活支援拠点センターすいれん 事務局:八女市障がい者福祉係、八女市障がい者基幹相談支援センター
内 容 1. 開会のあいさつ (八女市障がい者基幹相談支援センター 大塚博嗣) 2. 議事 (1)報告事項 ① 部会活動について(資料①) 報告:山村 ・権利擁護部会 ・課題解決型部会「にも包括」 ・こども部会 ・アウトリーチ・サポートチーム ・相談ビスケット ② 第30回八女市障がい者等自立支援協議会について (令和7年6月17日開催) 報告:八女市障がい者福祉係 高山係長 ・報告事項:基幹センター、すいれん、部会報告 質疑応答では、緊急一時受け入れの事前登録の推進、家族会・当事者の意見聴取の要望、医的ケア児の活動の話題が出た。 ・協議事項:①児童サービス事業所の不足。利用者が増加している。「新規事業所を募集する。」については、公平性を保つため判断基準等を整備し、今年度中には公募する。 ②就労支援について。ハローワークより法定雇用率の話があり、今後の就労選択支援に期待するとの話があった。 ③「就労選択支援」について(資料②) ・報告:八女市障がい者福祉係 高山係長 制度の概要説明。八女市としては、現状まだ就労選択支援を行う事業所はない。 ・報告:大塚 就労事業所に集まって頂き、9月2日に就労選択支援について、意見交換を行った。 参加者:就労継続支援A型9事業所、就労継続支援B型6事業所、移行支援事業所2事業所。13事業所19名の参加

選択支援を実施予定事業所:3か所(八女市内1か所)、他は検討。
久留米市では就労部会で選択支援の取り組みをしていた。
八女市でも次年度、就労部会を立ち上げ、就労全体の意見交換の場を設けたい。

(2)その他

①「色、咲かせるプロジェクト」について 報告:堤

(八女地区の障がい児・者によるアート作品展販売) チラシ添付

今後も 11/16 健康づくりフェスタ、12/6 スマイルフェスタにも出店予定。

11/16 物販も予定、詳細は後日報告する。

②八女市障がい者基幹相談支援センターについて意見交換(資料③)

○ 主旨説明:大塚

基幹センターも10年を迎え、この間事業所の人事異動などもあり、当センターの役割をご存知ない方もいるため、改めて説明を行う。今まで、基幹センターへのご意見を伺う機会がなかったため、今回この場を設けた。基幹センター質問や疑問、求めていること、期待することを伺いたい。只、基幹センターが中核的な役割を担っているとしても、関係機関と一緒に地域を盛り上げていくことが肝要である、その為に、ご協力をお願いしたい。
又、グループで意見交換を行うため、地域課題についても意見を出して欲しい。

○グループワーク(30分)

各グループで、進行、記録、発表を決める。(グループの記録用紙に記載)

○発表

発表については、地域課題のみ発表を頂く。基幹に対するご意見については、及び、当センターの回答については、後日ホームページにアップする。各自ご覧いただきたい。

地域課題についての発表

- ① 入所、GHの利用者の高齢化、人材不足・人手不足。家族それぞれに課題がある。
- ② 他の事業所の特色が分からない。互いの事業所を知りたい。HW:事業所の見学をしたい。A・B型のぶっちゃけ話。苦労話。一般就労移行とA・B型の方向性の解離
- ③ 緊急の対応について。(拒否ばかり)
- ④ 部会や意見交換の場に参加する機関が限定される。マンパワー不足で、限定された機関の負担がある。部会が少なくなった(就労系)⇒地域や事業所の流れが分かりずらくなった。
- ⑤ 不登校の問題。間にいる人の支援。使える社会資源が得づらい。
- ⑥ 基幹とは連携が取りやすい。事業所が足りていない、今後増やすこと、相談員は足りているのか課題。不足していることで、タイムリーな問題解決が必要な事案の対応が難しいのではないか。
- ⑦ 児童発達支援を利用している方が、成長され放課後等デイを自動的にエスカレーター的に利用されることが、前提になっている。
児童(放デイ・児発)は集まる会議や話し合う場があったらよい。
- ⑧ 山間部の地域資源が乏しい。山間部加算があると受けてもらえる事業所が増えるかもヘルパーの空き状況が分かるといい。学童より放デイの方が家族や学校は楽、ラインを決めて欲しい。学童の先生、研修がない。

○基幹センターへ対する意見について(別紙①)

基幹センターからの回答(別紙②)

③福岡県発達障がい者支援センターあおぞら(田島氏)より、研修会の案内。

保護者向け研修会&交流会(中・高生編)

3. 閉会の挨拶

社会福祉法人 明和会 陽だまりの里 堤部長

以上